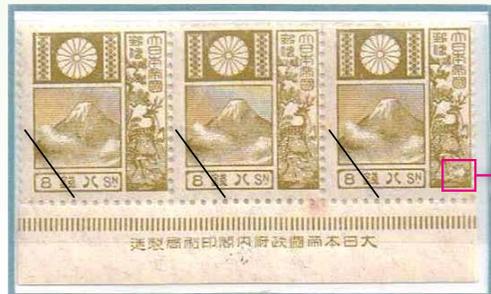


# JAPEX2022 誌上予告!

11月4日(金)~6日(日)の3日間、浅草の東京都立産業貿易センター台東館で開催されるJAPEX2022。注目を集める企画出品『富士鹿切手発行100年展』&『国体切手発行75年展』&『アメリカ切手発行175年展』の見どころを、会場での展示に先駆けて紹介します。(編)

## 『富士鹿切手発行100年展』

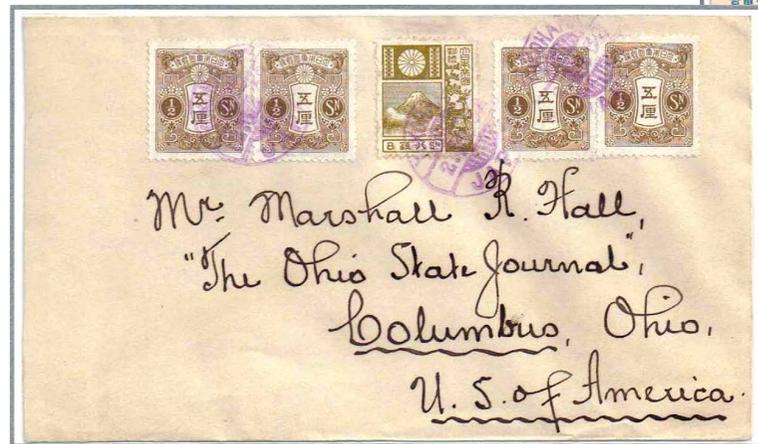


99番切手の定常変種

▲富士鹿切手改色旧版8銭未使用銘版3枚ストリップ。99番切手(右)に定常変種(鹿の足元右に白抜き)。かつて柳原友治氏が郵便局で購入したもの。[90%]

『富士鹿・風景切手 1922-1940』  
(伊藤純英氏)より

12. ▲風景切手昭和毛紙10銭単貼航空はがき/京都大宮三哲昭和  
17. 速達全国施行前の4カ月半の短期料金。[60%]



▲富士鹿切手改色旧版8銭ほか計10銭貼アメリカ宛外信書状/YOKOHAMA 1932.10.2。カール・ルイスによる手書き書状。[60%]

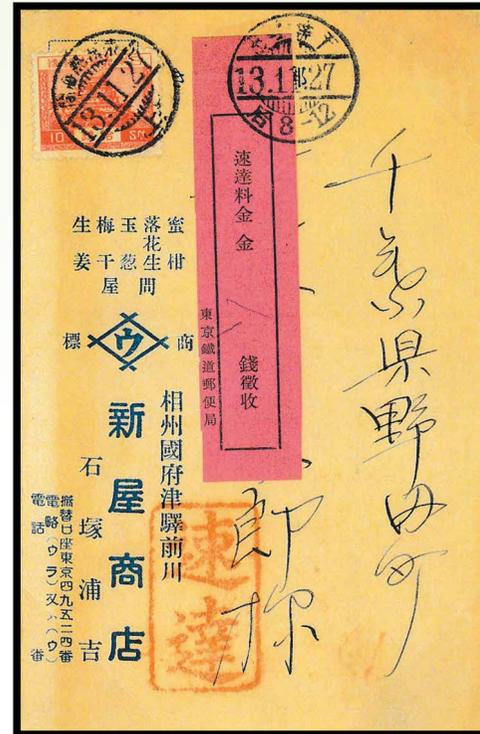
▶富士鹿切手昭和毛紙20銭単貼アメリカ宛外信書状/赤坂 昭和12.4.8。作爲的なFDCを除くと、最初期の使用例。[60%]



※2~7頁、特記外、切手原寸、カバー類65%縮小。

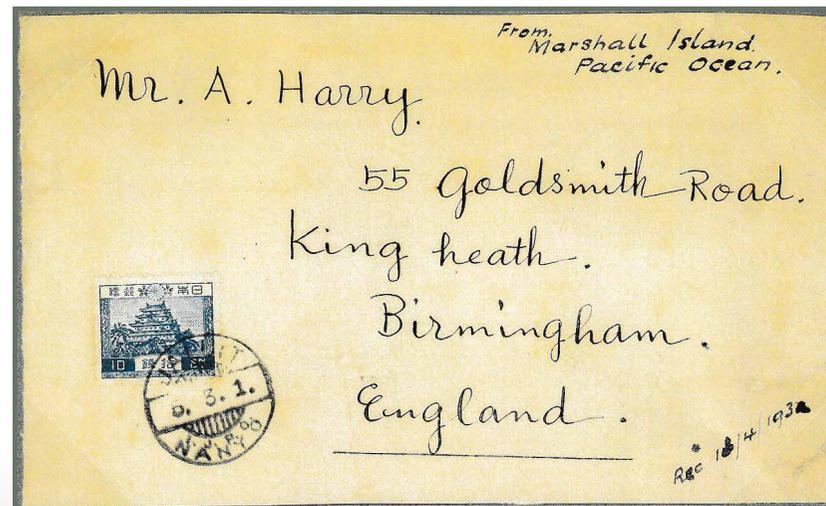


▲風景切手昭和白紙6銭他貼/KARUIZAWA 1938.8.25。軽井沢局の欧文ローラー印は、確認わずか数点のみ。



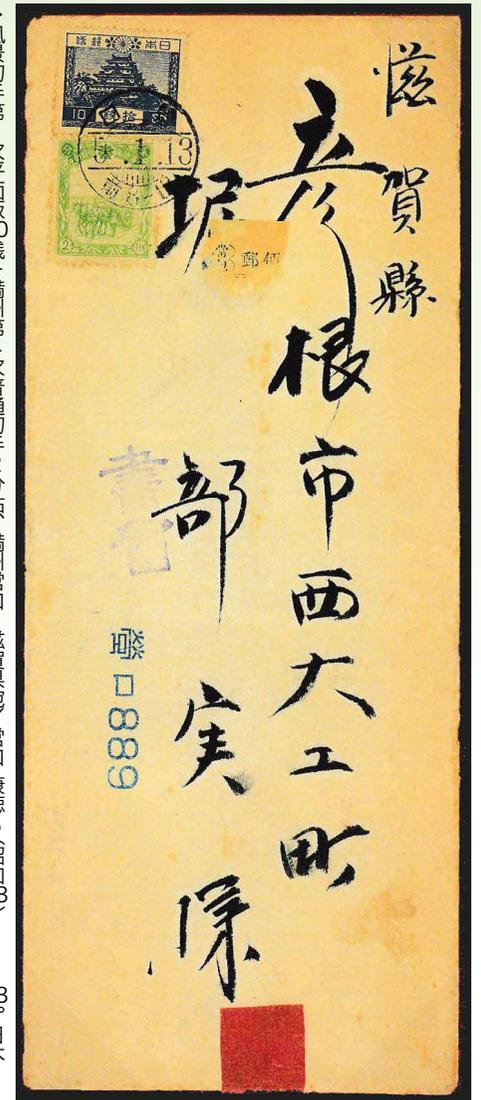
『風景切手の郵便史』杉山幸比古氏より

▲風景切手昭和白紙10銭単貼速達はがき/東京熱海間 昭和13.11.27。昭和12年8月16日より、速達制度の一本化と全国化に伴い、郵便窓口で差し出された速達郵便物には「速達料金〇銭徴収」の表示を行った。多くはスタンプだったが、稀に上のようなラベルが貼付された。

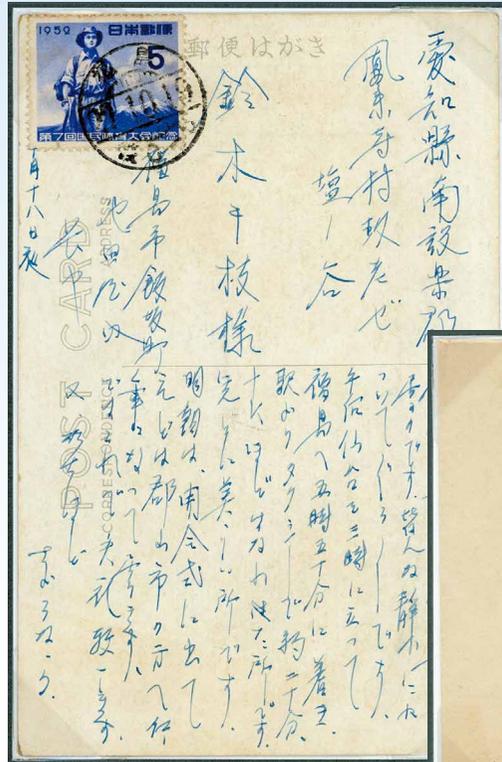


◀風景切手第1次平面版10銭貼、ヤルト島からイギリス宛/YALUIT 5.3.1。南洋諸島のヤルト局では、初期に「JALUIT」、後に「YARUTO」表示の欧文印が使用された。「JALUIT」表示の欧文印は、B欄が左から「年号」、「月」、「日」の順に表示され、年号は西暦ではなく、昭和年号が用いられている極めて特異な印。

▶風景切手第1次平面版10銭+満州第4次普通切手2分貼、満州宮口→滋賀真苑/宮口康徳5(昭和13)・1・13。日本切手と満州国切手の混貼使用。昭和12年12月1日~13年2月28日まで、満州国切手とともに日本切手の使用が認められた。



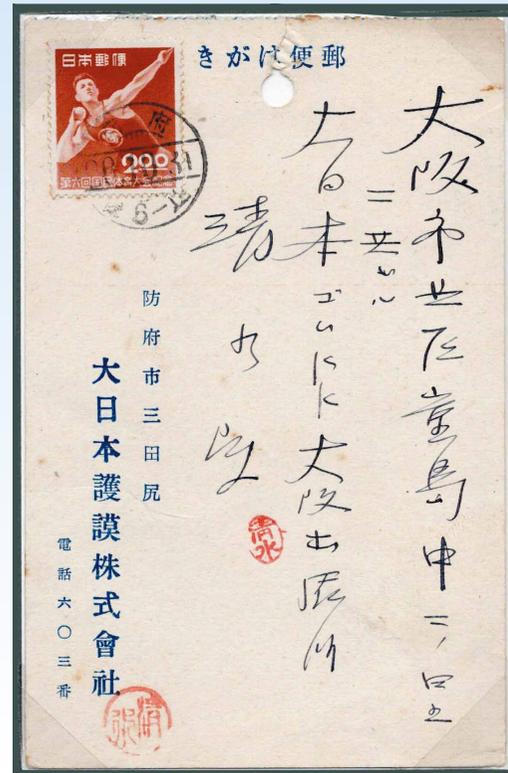
# 『国体切手発行75年展』



『東北3県で開催された第7回国体秋季大会』  
(池田駿介氏・斎 享氏)より

▲第7回国体切手5円単貼はがき/福島 27.10.19。秋季大会開催初日の使用例(切手発行2日目)。国体参加者が差し出したはがきで、文中に「明朝は開会式に出て、今度は郡山市の方へ行く」とある。[70%]

▼第7回国体切手5円縦ペア+磐梯朝日国立公園5円・10円貼アメリカ宛外信書状/鶴岡 28.6.26。鶴岡市の人物が差し出し。鶴岡市は磐梯朝日国立公園出羽三山の登山口で、第7回国体山岳競技が開催された鳥海山が北に控え、両者のコンビネーションとして相応しい地元。

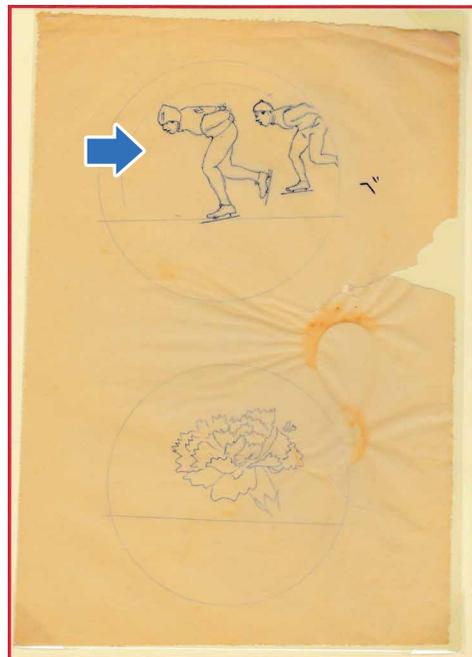


▲第6回国体切手2円単貼はがき/防府 26.10.31。切手の発行日は昭和26年10月27日で、同年11月1日の郵便料金改訂ではがき料金は2円から5円となったため、5日間のみ短期使用はがき。防府は自転車競技開催地。[70%]



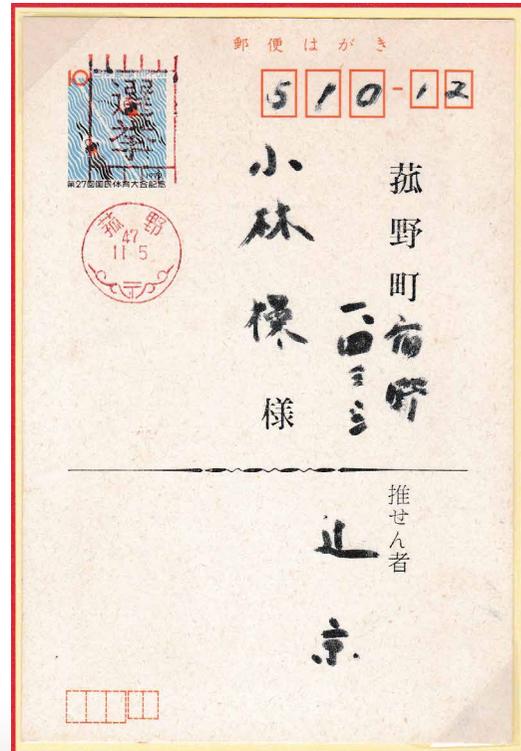
▲第13回国体切手5円単貼はがき/富山特印 33.10.21。陸上競技参加者差し出しのはがきで、文中に「僕は昨日三千米障害の予選を五位でとうりました。今日二時より決勝があります」とある。[70%]

『国体切手の開催地使用』(大久保幸夫氏)より

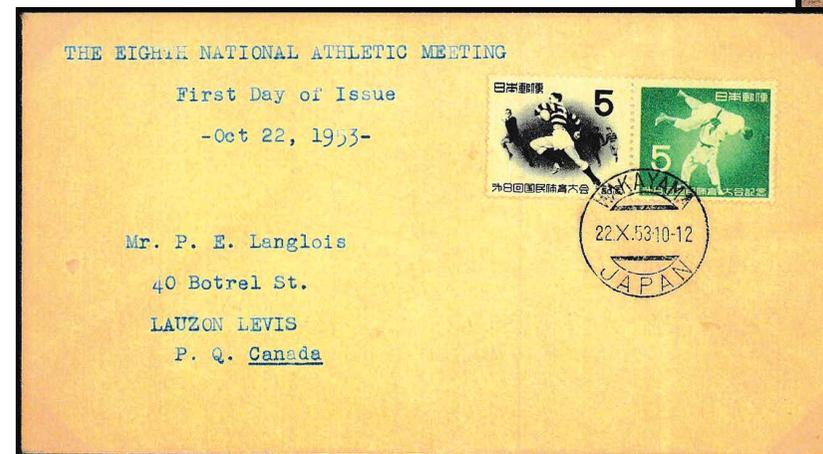


▲記念はがき・第24回国体(スケート)の鉛筆書きデッサン。不採用となったものと思われる。[40%]

『国体の記念葉書』(須谷伸宏氏)より



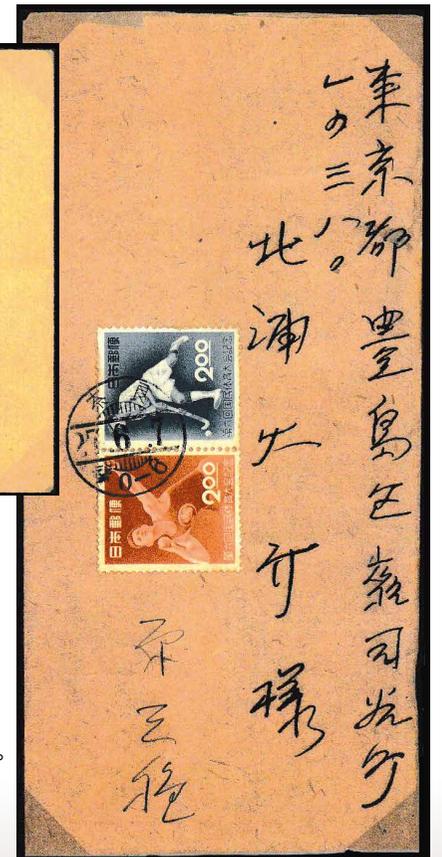
▲記念はがき・第27回国体(夏季)の選挙使用例/孤野 47・11・5。記念はがきの選挙使用は大変少ない。



▲第8回国体切手5円横ペア貼カナダ宛外信印刷物/WAKAYAMA 1953.10.22。

『国体・連刷 1947-1966』  
(長野行洋氏)より

▶第6回国体切手2円横ペア貼第3種郵便物/奈良 27.6.7。



# 『アメリカ切手発行175年展』

『Hawaii, The Provisional Government Issue & The Pictorial Issue』(山崎文雄氏)より



▲暫定政府加刷10cカラーエラー。本来、黒加刷すべきところを赤加刷したもので、1シート50枚のみの発行。現在31ポジションが確認されており、上はポジション21番のもので、銘版付き。



◀暫定政府加刷6cカラーエラー。本来、赤加刷すべきところを黒加刷したもので、1シート50枚のみの発行。現在28ポジションが確認されており、左はポジション15番のもの。

▶ピクトリアル・インシュアの5c・ラジダインブルー。アメリカン・バンク・ノート社での印刷で、プレート・ブルーより数は少ない。[70%]



▲1922年シリーズ平面印刷1½c・Oプレート単片。現存確認1点。1924~25年、実用版の耐久性向上のため版の硬化実験が行われ、他の版と区別するため、シート切手の右上の位置にオイルバスの「Oマーク」がつけられた。



▲1922年シリーズ2c目打10・ガイドライン付き切手帳単貼カバー／WURTLAND 1927.9.26。目打10×10の輪転印刷切手帳の最初の実用版のうち2版、#17450と#17451だけはガイドラインが使用されていた。ガイドライン付き切手帳を貼った使用例は現存確認3点で、日付の判読できるものはそのうちの2点のみ。カバーに貼られた切手帳のガイドラインは、下辺にガイドラインが付いたもののみが確認されている。



『United States The Flat Plate Printings of the Fourth Bureau Issue 1922-38』&『United States The Rotary Press Printings of the Fourth Bureau Issue 1923-38』(田村邦彦氏)より

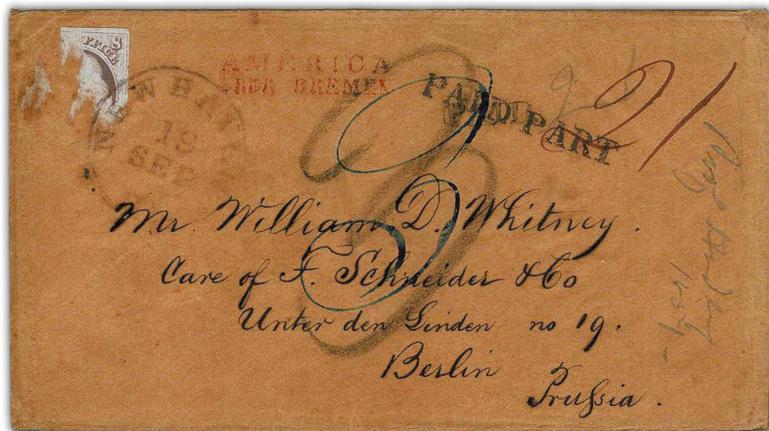
▲1922年シリーズ平面印刷8cスタープレートの実用版の版番号付き、現存確認4点(未使用1点、使用済3点)のうち2点(未使用と使用済/プリキャンセル)。8cスタープレートは、8cで使用された54種類の実用版のうち、プレート#16796の1版のみで、スター付きプレートブロックは確認されていない。

『新聞切手』(篠塚慶一郎氏)より



▲超大型新聞切手5c(1865年)の未使用10枚フルシート。[35%]

『The United States, 1851-1861』(佐々木孝弘氏)より



▲1851年7月1日の使用停止(無効)の措置に基づき、貼付されていた5c切手が剥がされ、現金還付されて、そのまま宛先のベルリンへ送られたカバー。[70%]



▶メキシコ戦争によってアメリカ領となったニューメキシコ準州フォートユニオン1852年2月3日差し出しの、郵便切手を貼ったものでは最古となるカバー(スタンプレスカバーを除く)。[70%]

『米国自動販売機及び自動貼付機用コイル切手 1906-1926』(奥山昭彦氏)より



▲1908年シリーズMailometer Type IV 5cの唯一確認されている未裁断シート銘版付きブロック(Dr. Agris氏旧蔵)。[85%]